

令和元年東日本台風（台風19号） における各避難施設からの意見聴取まとめ

【目次】

1. 令和元年東日本台風（台風19号）対応の概要（区全体）・・・P1
2. 開設した施設・避難者数について・・・P2
3. 避難施設開設の準備及び態勢について・・・P3
4. 避難者の受け入れと対応について・・・P3
5. ペット同行避難について・・・P3
6. 施設の特性に係る課題について・・・P3
7. 物資について・・・P4
8. 情報連携・その他・・・P4

1. 令和元年東日本台風（台風19号）対応の概要（区全体）

(1) 気象概要

①台風情報（10月12日 21時頃、江戸川区最接近時）
 進行方向・速度 北北東 35km/h 中心気圧 955hPa
 中心付近の風速 40m/s 最大瞬間風速 60m/s

②区内の状況

- 最大瞬間風速 43.8m/s 12日 21:17（臨海）
- 時間最大雨量 20.0mm 12日 9:20～10:20（小岩事務所）
- 総雨量 157.0mm 10日 19:02～12日 22:47（江戸川区役所）
- 最高潮位 A.P. 2.83m 13日 4:20（新左近川水門）

(2) 主な情報・対応経緯（江戸川区）

時刻	主な情報・対応経緯	
10/8 9:50		情報連絡態勢
10/11 8:30		災害対策会議開催〔自主避難施設の開設決定(各区民館・グリーンパレス)〕
11:30		自主避難施設の受入先の発表
10/12 4:14	警報	大雨警報
6:32	警報	洪水、暴風、波浪警報
7:15		気象庁から荒川流域積算平均雨量が500ミリを超える見込みと連絡あり
8:00		江戸川区災害対策本部設置・江戸川区議会災害対策本部設置
8:30		自主避難施設開設
9:30		気象庁に上記雨量を再確認し避難勧告を決定
9:39		避難所開設職員に避難所(小・中学校)の開設を指示
9:45		新中川以西に避難勧告(清新町・臨海町は除く)を発表 防災行政無線で避難勧告を放送(各区民館・コミュニティ会館を案内)
10:27		避難勧告をエリアメール送信
13:40		避難所開設完了(新中川以西、全ての小・中学校)
14:00		防災行政無線で避難所の開設状況を放送
23:55	警報解除	大雨警報解除 →大雨注意報へ
10/13 2:13	警報解除	暴風警報解除 →強風注意報へ
7:40		第8回災害対策本部会議開催 避難勧告解除(荒川の水位状況より判断)・避難所の閉鎖を決定
8:00		避難勧告解除を発表 防災行政無線で避難勧告解除を放送
9:30		全避難所閉鎖完了 災害対策本部から情報連絡態勢へ移行
10/14 1:07	警報解除	洪水警報解除 →洪水注意報へ 全ての警報解除
1:20		情報連絡態勢解除

(3) 避難所の設置等 ※避難者数は最大避難者数

- ・小・中学校避難所の設置(教育委員会)65施設：26,761名
 - ・各区民館・コミュニティ会館等(生活振興部・健康部)31施設：5,763名
 - ・文化施設(文化共育部)8施設：2,501名
 - ・くつろぎの家(福祉部)1施設：15名
- ⇒合計 105施設 35,040名

2. 開設した施設・避難者数について

避難者は合計 8,279 名、新中川以東地域も 3,207 名の避難を受入
学校避難所の開設準備中も各施設で避難者を受け入れたことは有効

合計 40 館・8,279 名を受け入れた。開設した経緯は主に下記の 4 区分に分類される。施設名・避難者数は下表のとおり。

- ① 6 館：あらかじめ自主避難施設として開設を予定（グリーンパレス及び各区民館）
- ② 25 館：10 月 12 日朝の災害対策本部指示により、自主避難施設として開設（各コミ館等）
- ③ 1 館：区民館の収容人数が多くなり、近隣施設を開設（鹿骨健康サポートセンター）
- ④ 8 館：開館中に避難してきた区民を受け入れ（タワーホール船堀ほか）

避難勧告は新中川以西（清新町・臨海町を除く）の地域に出ていたが、避難勧告対象地域外の各施設にも多くの避難が行われた。新中川以東地域の各施設における避難者受け入れ人数は計 3,207 名、全避難者数(35,040 名)の 9.2%であった。

避難勧告発令時、学校避難所が開設準備中の中でも各館ともに通常通り開館をしており、直ちに避難者を受け入れることができた。これは台風上陸がその日の夕方という状況下においては、有効な対処であった。

(名)

グリーンパレス	小松川区民館	葛西区民館	小岩区民館	東部区民館	鹿骨区民館	鹿骨健康サポートセンター	小松川さくらホール	小岩アーバンプラザ	東部フレンドホール
706	198	992	324	337	546	101	8	213	814
松江コミュニティ会館	松江区民プラザ	一之江コミュニティ会館	コミュニティプラザザー之江	平井コミュニティ会館	中平井コミュニティ会館	北葛西コミュニティ会館	二之江コミュニティ会館	南葛西会館	新田コミュニティ会館
68	37	171	178	51	86	63	52	59	64
清新町コミュニティ会館	臨海町コミュニティ会館	東葛西コミュニティ会館	長島桑川コミュニティ会館	船堀コミュニティ会館	新川さくら館	西小岩コミュニティ会館	北小岩コミュニティ会館	南小岩コミュニティ会館	瑞江コミュニティ会館
79	50	31	380	144	3	82	128	178	108
江戸川コミュニティ会館	篠崎コミュニティ会館	タワーホール船堀	総合文化センター	篠崎文化プラザ	中央図書館	小岩図書館	小松川図書館	総合体育館	くつろぎの家
83	135	1,200	386	83	※ 0	60	8	58	15

合計 8,279 名

※1 中央図書館は避難者を一時受け入れたものの、他施設へ移動するなどにより宿泊者は 0 名だった。

※2 網掛けは新中川以東の施設

3. 避難施設開設の準備及び態勢について

学校避難所の開設タイミング及び区職員の配置について課題

台風上陸の当日朝に雨量予測が 200 年に一度相当のものとなり、洪水の危険性が高まったため急遽各施設で避難者を受け入れることとなったが、学校避難所を事前に開設していなかったことについて意見が相次いだ。

また、指定管理・委託施設においては区正規職員を配置すべきとの意見が多かった。

4. 避難者の受け入れと対応について

現場職員の対応は良好、避難者も運営に協力的 設備の提供に一定のルール整備が必要

避難者の受け入れと対応については各施設職員の臨機応変な工夫により、その場でできる限りの様々な対応を行っており、対応は良好であった。お湯、携帯電話充電用のコンセントの提供を行った施設が多かったが、各施設設備の違いや統一的な方針を定めていなかったことなどにより、各施設により対応の違いが見られた。

避難者や地域の方はおおむね運営に協力的であり、自主的に手伝ってくれる方もいた。

5. ペット同行避難について

大半の施設でペットを受け入れた一方で施設の状況により断った例もあり

大半の施設でペット同行避難を受入れた一方で断った施設も複数見られた。理由としては、学校避難所への誘導が可能であったこと、飼い主側の準備（ケージ等）が不十分であったこと、カーペット敷・畳敷の箇所が多いこと、翌日の施設貸し出しに備え区施設の汚損をどこまで許容するか判断は指定管理者・委託事業者の職員だけでは難しいこと、などであった。

6. 施設の特性に係る課題について

学校より良好な設備を有する施設に避難者が集中 水害時は避難施設として適切な施設を案内する必要 災害時の施設利用キャンセルについてルールと周知が必要

タワーホール船堀や東部フレンドホールなど一部の施設は、学校避難所と比べて内装・トイレ・エレベーターなど設備がより高度に整備されているため、良好な環境を求める避難者が集中した。(タワーホール船堀は近傍の改築済校である船堀小学校よりも避難者が多かった。)

コミュニティ会館は基本的に 2 階建の施設が多いため、水害時の避難施設としては適当ではないという指摘が複数挙げられた。

区民向け貸出施設という特性から、台風襲来前後の休館の判断や予約キャンセルに伴うペナルティの取扱いなどについてあらかじめ方針を決め、周知することを求める意見があった。

7. 物資について

各施設より様々な要望が挙げられたが、追加配備については慎重な検討が必要

避難所補完施設となっている各施設については、備蓄物資として毛布 100 枚が置かれていた。今回の台風対応では、危機管理室保管の備蓄物資を各部へ緊急提供した。

物資については各施設から様々な要望が挙げられているが、備蓄物資を増やしていくかについては、避難所補完施設の役割及び各施設の備蓄物資保管スペースの確保等の課題から、慎重な検討が必要である。

8. 情報連携・その他

**区民からの問い合わせはどの現場でもある。すべてのスタッフに情報共有が必要
区職員が不在の各施設スタッフ向けにMCA無線を活用すべき
学校避難所含め近隣施設相互で情報共有・連携する仕組みが求められる
区職員・各施設スタッフ共に防災知識をさらに身に着けることが必要
区職員以外のスタッフにどこまで対応を求めるのか区として検討が必要**

今回の台風対応では主に職員安否確認システムを活用した情報発信を行ったが、区職員が配置されていない各施設では災害対策本部からの発信情報を直接受け取ることができず、区民からの問い合わせに苦慮することとなった。各施設は主管課職員からの情報提供や区ホームページなどから情報を得ていた。これらの施設の大半はMCA無線機が配備されており、これを使用することができたが活用できなかった。

近隣施設や学校避難所との情報共有や連携はほとんどできていなかった。

区民対応にあたり挙げられた意見の中には、あらかじめ知っていたら回答可能な項目も散見された。区職員・各施設スタッフ共に防災知識をさらに身に着けることが必要である。

区職員以外のスタッフからは避難施設での従事について不安の声が上がっており、指定管理者・委託事業者と具体的に協議が必要である。